

2017年11月11日
NPO法人・日本火星協会

MDRSのFieldSeason案内

★目的：

オバマ大統領が2010年4月に「2030年代中頃には有人火星探査を」と演説した時から有人火星探査実現への流れが加速しました。来年の3月には第2回ISEF（国際宇宙開発フォーラム）が日本で開催されます。★

また、以下の通り火星移住計画がいくつもの団体から提案や構想が発表され、20年以内に火星へ人を送り込むことが現実のものとなって来ています。

1. NASAとロスコスモスが月周回軌道に火星へ向かう基地GATE_WAY建設で協力合意
2. SpaceXの火星コロニー計画
3. ロッキードマーティンの火星軌道上・有人宇宙ステーション建設計画
4. UAE火星都市建設構想
5. HPによる火星のマウルス谷に100万人都市をVRで建設する企画

昨年公開された映画「オデッセイ」の首題は「火星で如何に生き延びるか」でした。

<火星へ行って、為すべき事をして、無事に地球へ帰ってくる>このことを実現するため必要なことは、火星で現地調達するための技術開発に加えて、火星へ行くマーズノート達が生き抜くための課題を探り、解決策を立案する必要があります。多くの革新的技術とアイデアが求められています。

MDRSは、そのための研究実験基地です。日本の技術や知恵を有人火星探査に生かして行きたいと願っています。

★MDRS日本隊の構成(案)：

コマンダー(隊長)、エンジニア(ローバー等) 2人、保健管理者 1名、ミッションスペシャリスト(科学分野専門家) 他

★体験内容：

- ①ハブ、グリーンハウス、ローバーの管理運用を行い次のチームに引き継ぐ
- ②ルーティンでの活動と日報の作成そして最終的にレポートの提出
- ③実際の火星探査の作業を行う中で、各自の研究課題を抽出する。
- ④毎年8月に行われる火星協会の年会に出席する権利が得られます

★参考情報：

1) 基本費用は合計 約30万円(為替変動により変更されます)

①交通費 往復で約16万円：日本→飛行機→グランドジャンクション(コロラド)→レンタカー→MDRS

②滞在費 約14万円：MDRS使用料、食事代

2) 簡単な英会話能力(コミュニケーションのため)

英語の読み書き能力(アンケートやレポートを書くため)

★参加実績：

1) 2013-2014 Field Season：初めて6名の日本人研究者で結成されたTeam_NIPPONがCrew137(2014.3.1-3.16)として活動を行いました。日本独自の工夫で水の節約をするなど高く評価されました。 Final Report： <http://mdrs1.sakura.ne.jp/report.html>

2) 2014-2015 Field Season：単独でCrew144(2014.11.29-12.14)に村上祐資氏、Crew149(2015.2.7-2.22)に長沼毅氏が参加しました。

3) 2015-16 Field Season：Crew165(March 5-20, 2016)、4名の日本人若手研究者+アメリカ、カナダの研究者2名で活動しました。日本食の味や盛りつけの効果、クルーの生活データなどの調査実施。

4) 2017-18 Field Season：Crew191(Mar 24 -Apr8, 2017)、5名の日本人研究者+インドネシア研究者1名でTeam_Asiaとして活動予定です。(応援よろしくお願ひします。)

★「写真提供：Facebook of Mars Desert Research Station」

★お問い合わせは、NPO法人日本火星協会まで

Email：contact@marssociety.jp